



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

## 知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 2991 号 2016.4.29 発行

観戦者と感染者を増やしたい（パラスポーツを最高に楽しむアイデア）



朝日新聞 2016年4月28日

沢辺芳明さん=金川雄策撮影

2020年に東京で開催されるパラリンピック。楽しみにしていますか？

パラリンピックを迎える街はこれからどう変化し、私たちの社会をどんなふうに変えていくのでしょうか。自らの経験を生かしながら、パラリンピックを盛り上げようとアイデアを膨らませている沢辺芳明さんが、2020年に向けて発信していきます。

私は18歳でバイク事故に遭い、脊髄（せきずい）を痛め、手足が完全に不自由となった。だが、私は、「障害者であること」を受け入れなかった。それは今でも変わっていない。

24歳で、大学に通いながら広告会社を起業し、ビジネスの世界に飛び込んだ。自分の境遇は表に出さず、公表する写真はバストアップのみ。リハビリもせず、病院にも障害者団体にも属さなかった。ただひたすら、広告業界をサバイブし、海外広告賞を100以上受賞し、今では海外を含め7社のクリエイティブスタジ



オを率いるようになった。

気づけば42歳。そんな私が昨年夏、入札で手にした仕事が、日本財団パラリンピックサポートセンターオフィスのデザインを手がける総合クリエイティブディレクションだった。

仕事を通してパラリンピックの世界をのぞくことになり、初めて、自らの境遇とビジネスが会うこととなった。

世界で初めて二度目のパラリンピックを開催する東京。

東京オリンピック・パラリンピックは、日本というOSをアップデートできる絶好のチャンスだ。

現在の日本は、前回の東京オリンピックが開催された高度経済成長時代のインフラの上に成り立っている。マイナーアップデートを重ねながら継ぎ足しで時代になんとかシステムを合わせてきた。しかし、21世紀に入り、ほころびが見え始めた。もはや、先人の作

り上げたシステムは、グローバル化が進み、ソーシャルネットワークでつながった個人主義の世代には機能しない。

J a p a n a s N o . 1 は、アジアにおいても通用しなくなった。

高齢化が進んで高齢者があふれ、先進医療が進み、障害者が障害者でなくなる現代。何がマイノリティーとマジョリティーを分けるのだろうか。

私たちは障害者に対し、ある種の洗脳を受けてきたと言っていい。私は小学生の時から繰り返し、障害者は不幸で努力する純粋な人々と教わった。もちろん、この10年で随分イメージは変わった。しかし、画一的なイメージでとらえている部分もまだ多い。誰一人、同じではないのにである。良い人も悪い人もいるし、不倫もする。

私はまさか自分が、あっち（障害者）側にいくとは思ってもしなかった。そして今、あっち側とこっち（健常者）側なんてない気付いた。マイノリティー対マジョリティーという構図を、マイノリティー側が作る。これは被害妄想的でナンセンスだ。

課題解決というのは、スマートかつ美しいものだ。それが鮮やかであればあるほど人は共鳴する。

私は約20年間、広告の世界で生きてきた。アイデアやデザイン、コピーなどのクリエイティブ、そしてテクノロジーは課題を解決し、既成概念を破壊するエネルギーとなろうとしている。

パラリンピックはこの日本を強く前進させる力を持っている。パラリンピアンはクリエイティブ、テクノロジーに刺激を与え、新しい発想を生み出す源泉になろうとしているのだ。

そういった視点で私はこのコラム上で様々な関係者に話を聞き、クリエイティブ目線で、成功に向けた提言をしていきたいと思う。ロンドンを分析し、リオの現状も見ていくつもりだ。

人は未体験のものを理解するのは難しい。人生で一度も100mを走ったことのないという人はほぼいないだろう。だから、ボルトの速さを想像でき、感動を実体化できる。そして、マジョリティーで共有できる。

パラリンピックの観戦者を増やし、感染者を増やしたい。それには、「らしいこと」をしていてはいけない。「らしくないこと」にあえて価値を見いだすこと。それによって、洗脳を解く。そのパラダイムシフトの共鳴者のつながりが、私の考える2020への聖火リレーだ。

さわべ・よしあき 1973年、東京都生まれ。バイク事故で車いす生活に。24歳で広告・デザイン会社「ワン・トゥー・テン・デザイン」を設立し、社長を務める。

昨年秋、総合演出した日本財団パラリンピックサポートセンターの共同オフィスは、「アスリートはスポーツを楽しみ、競技団体の職員たちも自ら楽しもう！」という意味を込め、「i e n j o y !」というキャッチコピーとともにデザインした。

## 成年後見の申し立て最多 第三者選任7割、最高裁まとめ

日本経済新聞 2016年4月28日

認知症などで判断能力が十分でない人を支援する成年後見制度の利用申し立てが昨年1年間で3万4782件あり、過去最多だったことが28日までに、最高裁のまとめで分かった。制度の利用が着実に進んでいる実態が浮かび上がった。弁護士など親族以外の第三者が選任された割合も過去最高で初めて7割を超えた。

最高裁家庭局によると、全国の家裁への申し立て件数は2005年に初めて2万件に達し、12年以降は3万4千件台で推移し、昨年は前年より409件増加した。

親族以外の第三者が後見人に選任されたケースは年々増加しており、12年に5割を超え、昨年は70.1%だった。内訳は多い順に司法書士27%、弁護士23%、社会福祉士11%。

申立人は本人の子が30%と最多で、次いで市区町村長が17%、本人のきょうだいが14%

だった。制度の利用者総数は、昨年12月末現在で19万1335人となり、1年前の18万4670人より6千人以上増えた。

制度を巡っては、弁護士ら「専門職」による財産の着服などの不正が昨年1年間に37件あり、過去最悪だったことがすでに判明。後見人全体の不正は521件と14年より310件減り、被害総額も27億円少ない29億7千万円だった。

今国会で成立した制度の利用を促進する法律は、家裁や関係機関による監督強化を求めている。〔共同〕

## 介護報酬の不正請求で業者指定取り消し 大阪市、3200万円返還請求

産経新聞 2016年4月28日

提供するサービスを偽って不正に介護報酬を受領していたなどとして、大阪市は28日、介護保険事業所「ケアセンターぴあことぶき」（同市大正区）など3事業所を、介護保険法と障害者総合支援法に基づき、指定を取り消すと発表した。処分はいずれも30日付。また3事業所を運営する「オオフナ」（同区、藤原晃治代表取締役）に対し、加算金を含む約3200万円の返還を求める。同社は全額を返還する意向を示しているという。

市によると、ケアセンターぴあことぶきは昨年2～9月、利用者6人に対し、実施していないサービスを提供したように装い、退職した元職員の氏名を使ってサービス提供記録を作成し、介護報酬を不正に受領するなどした。また別の事業所では昨年8月、従業員が訪問した利用者宅で包丁を自分に突き付けて「死なせて」と訴え、利用者に恐怖を感じさせた。

昨年9月、不正請求を疑う情報提供があり、市が調査を進めていた。

## <水曜フォーカス>19. 子育てシェア「アズママ」

カンテレワンダー 2016年4月27日

子育てと仕事の両立に、頭を悩ませる母親。



【響くん】「お母さ～ん」  
ほんの1時間でいいから、子供を預かってくれる人がいたら...

【菅野祥子さん】「あーだれかお願いという時に、食事をお願いする時とか、おやつですとか、お礼ルールという形で一時間ワンコイン」

ママ友に”ワンコインで”子育てをお願い？今日は、じわじわと広がりつつある「子育てシェア」にフォーカス。大阪市内に住む菅野祥子さん（41）。

【響くん】「お母さんと一緒に家にいたい！」

毎朝くっついて離れたがらない長男の響くんを保育園に送り届けて出勤。仕事が終わると急いでお迎えに。文字通り、仕事と子育てに追われる毎日ですが…。親とは離れて暮らしているため、頼ることはできません。

【菅野さん】「送別会の時に会社の偉い人もくるので、こどもは遠慮してほ

しいと言われたときにえー夜どうしようと思って...」

国の調査によると、3世代で暮らしている世帯の割合は、全世帯のわずか7%。

昔に比べると、地域のつながりも薄まっているため孤立する母親は少なくありません。

そんな時代に現れたのが...。株式会社アズママが運営するインターネットサービス「子育てシェア」です。

【菅野さん】「近くの友達から出てくるので、そこから（選んで）お願いしますということ



で」

例えば、突然の用事で子供を預かってもらいたい時には、インターネットを使ってサービスに登録している”ママたち”にお願い。都合がつく人がいれば「子育てシェア」が成立します。これなら直接やり取りすればいいのでは...と思うかもしれませんが、最大の特徴は、万が一のケガなどに備えて運営会社が保険をかけていること。

サービス開始からわずか3年で3万5000人以上が登録しているとい

います。今月、大阪市内で開かれた母親たちの交流会。見知らぬ母親同士が子育てをシェアするためのいわば顔合わせです。

【母親Aさん】「もともと生まれ育ったのが大阪じゃなくて、なかなか知り合いが多くなって頼りになる人がいないので」



サービスを使う前に、必ず顔見知りになっておくことがルール化されています。

【母親Bさん】「うちの家族夫が海外出張が多くて月に1~2回しか帰ってこない。実家も遠いので一人で育児をしている感じなので、しんどいときとかに相互助け合えるような知り合いがもうちょっと近くに増えるといいなと思って」

【母親Cさん】「地域の支援センターとかに行き、仲良くして頂けるお母さん方に出会えたけどやっぱり頼みづらい。双方がオッケーの場合頼みやすくなる場所で使っていけたらなと思って」

2年前からこのサービスを利用しているという菅野さん。休日に仕事が入った時などに、響くんを預けています。



【響くん】「よろしくおねがいします」

【菅野さん】「じゃあひびきちよとお母さん行ってくるからね」

この家には何回も来たことがあるため、菅野さんも預けることに心配はしていないと言います。

【響くん】「まだ遊びたいー」

【菅野さん】「お母さんもよく知っているんで、遊んでいるが目に浮かぶし、知っている人に預かってもらうのはすごく安心したし、こどもも楽しんで

るのですごい助かっています」

そしてこのサービスならではの特徴が、1時間500円から700円の”お礼”を渡すこと。ママ友にお金を払うってちょっと違和感がありますが…。これこそが、サービスが広がっている所以です。



【菅野さん】「何かしてもらった時に、何をお礼しようかすごい悩む。和菓子がいいんだろうか、洋菓子がいいんだろうかと。そういうルールがあるとお金受け取るほうも、ちょっと抵抗ある人もいると思うけど、そういうものだからOKとなるので」

子供を預ける時もあれば、預かる時もあります。この日は、子育てに追われているママ友から「大好きな歌手のコンサートに行きたいので子供を5時間預かってほしい」と依頼されました。

インターネットを介して育児を分担する母親たち。焦点を当てると見えてきたのは「子育てシェアが生み出すもう一つの効果」です。

【響くん】「いつくんこんなのもできたら遊んでみよ、いつくんこんなのはできる？」

ママ友が預けた子どもと、仲良く遊ぶ響くん。いつもはお母さんに甘えてばかりですが…。自分から積極的に話しかけています。

【菅野さん】「兄弟みたいな体験ができるので、この子もそういった協調性とか人と一緒に過ごすことを学んでいってくれているのでそれはわたしも助かっている部分」

母親たちが頼り合うことが子供の成長も促していました。

【菅野さん】「そんなに一人で抱え込まないでもいいし、頑張らなくてもこどもは案外育つということに気づかされました」

地域の繋がりは希薄になったと言われる時代。子育てシェアは新しいご近所づきあいのカタチなのかもしれません。

## 日本最大級！京都鉄道博物館の魅力に迫る

カンテレワンダー2016年4月27日ゴールデンウィークでお出かけする方も多いたと思いますが、京都に日本最大級の「鉄道博物館」がオープンします。



その魅力やおすすめのポイントを一足早くたっぷりとお伝えします。



【坂元龍斗キャスター】「京都鉄道博物館のスカイテラスです。京都の観光名所に行き交う新幹線、いいじゃないですか！」

JR京都駅の近くにある梅小路公園内に誕生した、京都鉄道博物館。入り口では日本最大のSL

「C62（シーろくじゅうに）形（がた）蒸気機関車」や「0系（ぜろけい）新幹線」など時代を象徴する車両が迎えてくれます。



【坂元キャスター】「ここは実際の駅のホームをイメージして展示されています。初代0系新幹線ずっと向こうまで続いていますね。

中を見てみるとここはグリーン車です。今と形が違いますね。歴史を感じます」

展示されている車両の数は、日本の鉄道博物館で最も多い53両。去年、惜しまれながら引退した



豪華寝台列車「トワイライトエクスプレス」は、最上級の客室や食堂車を展示。

世界最速の時速300キロを記録し、ギネスブックに掲載された「500系新幹線」は直接、触れることも出来ます。

【子ども】「つつつるやな〜つつる」  
「バイバーイ」



展示方法にもさまざまな工夫が。車両の下を通り抜けることができる「かさ上げ展示」です。

見上げてみると・・・。普段は見ることができない「車両の底」が間近に。

【子ども】「電車の下！」  
そして目玉の一つが、SLです。去年、閉館した梅小路（うめこうじ）蒸気機関車館などから引き継いだ23両のSLを展示。

国の重要文化財である「扇形車庫（せんけいしゃこ）」に並ぶ姿は、まるで

タイムスリップしたような光景です。

【坂元キャスター】「ここはSLのメンテナンスを見ることができる場所です。そしてタイミングがあればそれを外でも見ることもできるのです。作業をしているみなさん、カッコいいです！」

ベテランの整備士によって一部のSLは実際に走れるようにメンテナンスされています。



そのSLが引っ張る客車にも乗ることができ、汽笛や吐きだす蒸気などの迫力をすぐ近くで感じることができます。

【SLに乗った子どもたち】「はじめてSLに乗って楽しかった」「音がうるさかったポッポッ」

この博物館の一番の魅力は「体験コーナー」です。

【新幹線の運転士】「ドアがしまったら新幹線を動かします」

真剣な表情で子供たちが体験しているのは、新幹線の運転です。実際の運転士が訓練で使用しているシミュレーターを設置。

【運転士】「これね、実際の新幹線の景色とほんとうに同じ景色」

週末など来場者が多い時には、なんと現役の新幹線の運転士が教えてくれるのです。

【運転を体験した子ども】「ちょっとだけ難しかったけど、ブレーキを止めるのと、スタートするところがおもしろかった」

【新幹線の運転士】「小さなお子様なので、専門的な知識をかみくだいて説明するのが難しいですが、楽しく運転してくれるので、おもしろいです」  
寝台特急「ブルートレイン」の食堂車ではこんな体験も。

【食堂車の従業員】「いらっしゃいませ、こんにちわ」

【坂元キャスター】「出迎えて下さるんですね」

運ばれてきたのはオリジナルのお弁当。ポテトやウインナーなど子どもたちに人気のおかずがぎっしりと詰まっています。

【坂元キャスター】「おいしい昔ならではの味。母の味ですね」

食堂車のレトロな雰囲気を味わいながらお弁当を楽しむことができます。



新しい発見があること間違いなしの

「京都鉄道博物館」。ゴールデンウィーク初日の4月29日にグランドオープンします。

29日のオープンを控えた京都鉄道博物館（京都市下京区）で28日、運営主体のJR西日本のほか、自治体関係者ら約210人が参加して、開業記念式典が開かれた。

500系新幹線などが並ぶ本館で、JR西日本の真鍋精志社長があいさつし「子どもから大人までが楽しんで体験できる博物館を目指す」と意気込みを述べた。



京都鉄道博物館の開業記念式典でテープカットする関係者=28日午前、京都市下京区

同館は、2015年8月に閉館した梅小路蒸気機関車館を拡張リニューアルし、大阪市にあった交通科学博物館（閉館）の資料の一部も継承。蒸気機関車（SL）から新幹線まで、歴代の名車計53両を展示する。

29日は午前9時に開館する。

**スマホ事故5年で239件 重いやけどや火災に発展例も** 朝日新聞 2016年4月28日  
スマートフォン（スマホ）などの携帯電話や周辺機器が原因で起きた事故が、2010年度からの5年間で計239件に上ることが、独立行政法人製品評価技術基盤機構（NITE）の調べでわかった。同機構が28日、発表した。重いやけどや住宅火災につながったケースもある。

機器別では、スマホ本体（71件）、ACアダプター（63件）、スマホ以外の携帯電話本体（41件）、モバイルバッテリー（35件）の順に多かった。

事故によるけが人は70人で、うち5人が重傷。13年10月に北海道の飲食店で起きた事故では、スマホ用のモバイル充電機が破裂、1人が大やけどを負った。火災も53件起きた。

誤使用や不注意など所有者に問題があつて起きた事故は64件で、原因が判明している事故の46%を占めた。充電器と接続する本体コネクター部分に無理な力を加えたり、飲料などをこぼしたりして発熱、発火したケースが目立った。

NITEの担当者は「毎日使う身近な道具だけに故障は起きやすい。特にコネクター周辺に不具合があつたらすぐに使用をやめ、販売店に相談してほしい」と呼びかけている。

月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も



大阪市天王寺区生玉前町5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行